

中越大震災は、学校にどんな災害をもたらしたか

1 地震の規模

2004(平成16)年10月23日17時56分頃発生
マグニチュード6.8 震度:7 (川口町)

2 地震の被害

死者	重傷者	軽傷者
67人	635人	4160人

(06.9.22現在 新潟県発表)

地震関連死亡原因	
内因死	外因死
50人	17人

住宅全壊	3,175棟
半壊	13,794棟
一部損壊	103,777棟

3 地震の特徴

- ・中山間地・地方都市の受けた被害で、高齢者等の災害弱者が多い。
- ・余震の頻発(発生後2時間以内に最大震度5以上の余震を11回も記録)。
- ・ライフラインの分断、鉄道・高速道路を含む道路網の不通(新幹線脱線など)。
- ・地滑りによる道路の分断・河川の閉塞(集団避難・集団移転)。
- ・地震による直接死の他、車中泊によるエコノミークラス症候群による死亡、自治体職員の救援活動の過労からとみられる交通事故死、ボランティアの茸栽培棟の片づけ作業で菌床を扱い茸菌アレルギーによるとみられる死亡等。

4 学校にとっての被害 [中越教育事務所調査、05年2月現在、から作成]

震源地中心に周辺の学校、310校(小学校219、中学校89、養護学校2)で

- ・家屋倒壊のため児童の死亡 4人(小学校5、6年生)
- ・負傷の児童生徒数 15人(骨折5、破傷7、その他3)
- ・負傷の原因 避難する際の転倒等 4人、割れたガラス等による破傷 3人
自宅家具等の倒れによる負傷 3人、自宅外の落下物による負傷 2人、
家屋倒壊の下敷き 1人
- ・地震後3人以上の児童・生徒が住所を変った学校 15市町村 213校
- ・授業場所の変更 ①全面的に他の学校や施設を使って再開の学校 10校
②一部他の学校や施設を使って再開の学校 2校
③学校施設内の一部学習場所変更で再開の学校 4校
- ・グラウンドに仮設住宅建設の学校: ①全面使用 3校 ②一部使用 8校
- ・体育館の使用不能 ピーク時で30校

5 アンケートに協力していただいた学校数と状況

	長岡市 小学校	長岡市 中学校	小千谷市 小学校	小千谷市 中学校	川口町 小・中	山古志 村(同)	計
依頼校数	21	10	14	5	4	2	56
回答校数	16	6	10	2	4	2	40
回答率(%)	76	60	71	40	100	100	71
備考 小、中 学校数	37	16	14	5	小、3 中、1	小、1 中、1	

アンケートはA3用紙2枚に質問27問(内、記述部分9問)、目を通す項目全体は115項目と回答には手間取るものだったが、アンケートの回答率は70%を超え極めて多忙の中で好意的な協力をいただいた(紙幅の都合でそのものは掲載を割愛した)。その回答を基に避難所としての学校、教職員、子どもの関連等を考察した。

地震発生当日は秋の土曜日夕刻だった。文化祭や学習発表会が終了し後片付けや反省会をしていた学校や、翌日の開催準備等で教職員が残っていた学校もかなりあった。文化祭の反省慰労会の開始直前に地震の直撃を受け宴会場で対策を協議し、そこから学校に駆けつけた教職員もいた。

調査対象を震源地の川口町と隣接する小千谷市の全部の小中学校と長岡市の比較的被害が大きかった東山丘陵地の周縁部の学校を選び、訪問して調査の依頼をした(近隣にも被害を受けた学校が散在したが、研究班の力量から調査対象にしなかった)。

川口町は、全4校(小学校3、中学校1)で、道路が遮断された木沢・峠地区の木沢小学校は、地震の年の4月に廃校となっており建物が避難所として利用されていた。トンネル崩落で通行不能の荒谷集落は泉水小学校に、集落移転を決めた小高地区は田麦山小学校に、それぞれ避難していた。

小千谷市は、全19校(小学校14、中学校5)で、他の学校や施設に移動した小学校2校を含む。千田小学校や南中学校など数校は、避難所としては使用されなかった。

長岡市は、全53校のうち、小学校16、中学校6を選んでアンケートを依頼した。山古志村(05年4月1日長岡市に合併)は、全村避難し、小、中学校各1校のいずれも長岡市中心部の学校に移転し、間借りして授業を再開した。(河合靖久)